

新生児先天性代謝異常スクリーニングに重症複合免疫不全症の 検査を追加することを求める意見書

2020年10月からロタワクチンの定期接種が始まる。ロタワクチンの定期接種化はロタウイルスによる乳幼児の重篤な症状を予防する上で大変重要な施策である。一方、5万人に1人いると推定される「重症複合免疫不全症(SCID)」のお子さんが、ロタワクチンを接種した場合、重篤な感染を引き起こしてしまう。定期接種化で、接種人数が多くなることが予想される中、ワクチンによる重症化を防ぐにはスクリーニングで発見することが必要になる。米国をはじめ、世界的には新生児スクリーニングと並行して、「重症複合免疫不全症」のスクリーニングを行う国が増えている。

現在、東京都では20種類の疾患の新生児先天性代謝異常の検査を行なっているが、「重症複合免疫不全症」の検査は行われていない。愛知県では、県内の医療機関が連携し「重症複合免疫不全症」「ポンペ病」のスクリーニング検査を行なっている。任意・有料ではあるが、通常行われる先天性代謝異常の検査と同時に行われている。

そこで、東京都に対して、スクリーニングの有効性を見極め、通常の新生児先天性代謝異常検査に加えて「重症複合免疫不全症」の検査が受けられる仕組みを作り、救える命を増やす取組を求める。

- 1 新生児先天性代謝異常スクリーニングにおいて、重症複合免疫不全症の検査を追加すること

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。